教育研究業績書

2016年10月01日

所属：日本語文化学科　　資格：教授　　氏名：管　宗次

研究分野	研究内容のキーワード
朝鮮通信使訳官と上方文人	近世期文人交流
学位	最終学歴
博士（国語国文学）	青山学院大学 文学部 日本文学科　卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 『坂本龍馬と和歌』	単	2013年03月25日	ふくろう出版	１９０頁
2. 『京大坂の文人　続続々』	単	2010年02月06日	和泉書院	１６４頁
3. 敷田年治研究	単	2002年01月	和泉書院	幕末から明治期にかけて、古典研究・文法・音韻・和歌などにおいて大きな足跡をのこした国学者、敷田年治の伝記と著述の総合的研究書である。江戸の和学講談所の講師を出発点として、明治期になると皇学館の初代教頭となって、国学の研究方法と学統を近代へとつなぐ偉大な存在の学者の評伝と著述の研究である。全（pp. 368）
4. 京大坂の文人－続－	単	2000年05月	和泉書院	京都・大坂および奈良・滋賀といった上方地域における近世期（江戸時代）の文人の伝記と著述についての研究。全（pp. 227）
5. 小倉百歌伝註・百人一首伝心録	共	1997年06月	和泉書院	吉海 江戸時代を代表する大阪の国文学者尾崎雅嘉の著述である「百人一首」の研究所・『小倉百歌伝註』のはじめて紹介と研究書。（pp. １～148）
6. 淡路国名所図絵	単	1995年06月	臨川書店	江戸時代末期成立の名所図絵で、淡路国を取りあつかった『淡路国名所図絵』（暁鐘成著）の複製および解題。全（pp. 642）
7. 貴重図書展観目録第一集・武庫川学院創立五十五周年記念特別展示・書と短冊展示目録－万葉学者と万葉調歌人－	単	1994年05月	武庫川女子大学附属図書館　武庫川女子大学国文学科	武庫川女子大学蔵の貴重書と短冊に加えて、個人蔵書のものを展観にした折の展示目録である。主に万葉研究に従事した江戸時代から明治期にかけての万葉学者と万葉調歌人のものを取りあげて、解説、釈文を施したものである。所載点数は62点をかぞえる。
8. 尾崎雅嘉自筆稿本　　百人一首一夕話	単	1993年11月	臨川書店	江戸時代成立の百人一首研究書のなかでは、現在も活字化されて最も普及し広く読まれている尾崎雅嘉著『百人一首一夕話』の自筆稿本を発見したもので、流布する板本とは内容に大きな異同を有し、雅嘉没後出版の板本との異なりは、学界に大きな波紋を起した。発見者でもある著者が、稿本の影印（二色刷）に加えて、精査した書誌研究と解題を施し、か

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				つ尾崎雅嘉の詳細な年譜をも添えたものである。
9. 幕末・明治　　上方歌壇人物誌	単	1993年09月	臨川書店	江戸時代後期・幕末から明治にかけて、おもに上方を舞台に活躍した歌人の業績と伝記を取りあげて論じたもの。香川景樹の桂園派の十哲である高橋残夢、山片本家の歌人たち、歌の神として尊崇を集めた住吉大社の古代からの神官家、津守の人々、また懐徳堂の歌人である加藤景範など、従来取りあげられぬままに埋もれていた歌人を中心に取りあげて、上方歌壇の真の姿を浮かびあがらせたものである。
10. 京大坂の文人－幕末・明治－	単	1991年07月	和泉書院	京大坂を中心として活躍した幕末明治期の文人たちを取りあげた研究で、取りあげた人物も与謝野鉄幹の父。礼厳法師・ニセ官軍として無実の罪で切られた川喜多真彦、京都の与力同心たちと様々で、これまでとは異なる視点からの文人像を追求。朝日・毎日・日経・京都の諸新聞の読書欄・文化欄でも高く評価された。
11. 愛日小学校総誌	共	1990年03月	愛日小学校を讃える会　事業委員会	中尾・末中・管・太田・薮内 創立120周年を迎える船場の愛日小学校は日本近代教育学史上注目される名門小学校である。特に山片家の旧蔵本一括は、ヨンストン動物図誌など天下の稀本を含み貴重なものである。　　分担　　管（pp.３）
12. 群書一覧研究	単	1989年06月	和泉書院	近世期成立の書目解題書である「群書一覧」の本格的な研究書。あらゆる角度から総合的分析を試みた。また、尾崎雅嘉の研究も兼ねており、東京大学「国語・国文学」の書評にも取りあげられた。
13. 大阪青山短期大学創立30周年記念所蔵展観目録	共	1987年05月	大阪青山短大	塩出・伊丹・山本・松浪・田村・長谷川・伊井・中川・管 重要文化財・重要美術品数点を含む短大所蔵品の優品を選び、全点の写真掲載と解題をあげて、学会に資料提供したもの。分担　　管（pp.82、122、131、132、146、147、149）
14. 尾崎雅嘉著述三種	単	1986年04月	臨川書店	国文、書誌学研究に業績のあった近世の国学者尾崎雅嘉の著述のより三点をあげて、研究解題を施し、尾崎雅嘉の年譜、伝記研究をも併せた。尾崎雅嘉の研究としては、初の本格的なものである。
15. 安政丁巳浪華尚歯会記と山口睦斎	共	1986年03月	和泉書院	管・郡俊明 和漢の学を兼ねた文人たちの集いの会尚歯会を取りあげ、特にその中心人物である山口睦斎を軸として上方の文人研究に新たな資料を用いて論じた。 分担　　管（pp.61-91、pp.135-143）
16. 定本群書一覧	単	1984年06月	ゆまに書房	全７巻　　近世期成立の書目解題書として、最も秀でた書である「群書一覧」との関係類書末書までを、全て集めて影印としたもの。全巻の索引を付し、同書一点一点の研究解題を施した。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 「中村良顕の社中歌集『蓼生園撰歌　初編』ー明治期旧派の活動」	単	2014年02月26日	「混沌」３７号　大阪芸文研究・混沌会	１２頁
2. 「『和歌類題浪花集』と尾崎雅嘉」	単	2012年12月26日	「混沌」３６号　大阪芸文研究・混沌会	６頁
3. 「弾琴緒と中村良顕ー歴代和歌宗匠と富裕な名家の弟子筋」	単	2012年11月15日	「武庫川女子大学生活美学研究所紀要」２２号	６頁
4. 「『明治３０年　御題歌共進歌集』についてー諒闇と旧派歌人」	単	2012年11月10日	「武庫川国文」７６号	１０頁
5. 「桐園蔵版『御代の花』について」	単	2012年	「武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）」６０巻	６頁
6. 「『桐園詠草附録』ー明治期旧派歌人の歌書」	単	2011年11月10日	「武庫川国文」７５号	１２頁
7. 「『桐園詠草附録』－明治期旧派歌人の歌書ー」	単	2011年03月11日	「武庫川国文」７５号	１２頁
8. 「石津亮澄の和歌と歌風」	単	2011年	「武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）」５９巻	５頁
9. 「高山慶孝「庚午初夏君玉三十四課」について」		2010年12月16日	「混沌」３４号　大阪芸文研究・混沌会	４頁
10. 「弾琴緒歌集『桐園歌集』３点について」	単	2010年11月10日	「武庫川国文」７４号	７頁
11. 「石津亮澄について」	単	2010年	「武庫川女子大学紀要	７頁

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			（人文・社会科学）」５８巻	
12. 近世期津守家の歌道－津守国礼と柿葉亭善始－	単	2002年03月	武庫川女子大学紀要　49巻	住吉大社は和歌三神の一体として古来より多くの歌人たちの信仰をあつめてきたが、その住吉大社に奉仕する神官たちもそのことを大きく自負して、歴世が和歌への情熱を注いできた。その一つとして津守家（住吉大社神主家）と、その下位にあった柿葉亭とのつながり、また、大きくいえば古今伝授にかかわる津守家と地下の官人たちとのつながりを浮かびあがらせるものとした。全（pp. ９）
13. 尾崎雅嘉	単	2000年09月	文学（岩波書店）　1巻　5号	江戸時代中期の国学者にして博覧家、また書誌学に大きな業績を残した尾崎雅嘉についての伝記と著述研究。全（pp. 11）
14. 大山崎離宮八幡宮社家－疋田家の文雅について－幕末から明治	単	1999年03月	武庫川国文　53号	「武庫川国文」52号所載の「大山崎離宮八幡宮社家－疋田家の文雅について－」の研究続編。全（pp. ８）
15. 高山慶孝『月の瀬紀行』	単	1999年03月	幕末明治和歌資料（三）　３号	全（pp. 18）
16. 大山崎離宮八幡宮社家－疋田家の文雅について－	単	1998年09月	武庫川国文　52号	中世以来の大山崎離宮の筆頭当職の神官家、疋田家の和歌連歌についての研究。全（pp. 10）
17. 大山崎離宮八幡宮社家疋田芳孝『習葉集』（翻刻編）	単	1998年03月	武庫川国庫　51号	中世以来の大山崎の神官家疋田の文雅資料についての紹介と考察。全（pp. 21 ）
18. 幕末期における山片家と懐徳堂－四水館をめぐって－	単	1998年01月	懐徳　66号大阪大学	山片蟠桃の本家山片重信の別荘における和漢の文人墨客の往来とその文雅の実体についての考察。全（pp. 11）
19. 見立評判記二種（解題・翻刻）『画家魚鳥風味批判　並僧医画工役者見立批判』	単	1997年12月	武庫川国文　50号	江戸後期の文人見立番付の刷物の紹介と考察。全（pp. ９）
20. 天保５年の山口睦斎	単	1997年03月	武庫川国文　49号	江戸時代末期、頼山陽門人の山口睦斎における雅会の運営についての考察。全（pp. ５）
21. 和歌俳諧体の宗匠　伊藤颯々	単	1997年03月	武庫川女子大学紀要　45巻	幕末から明治初期にかけての俳諧歌体という独自な歌風をうちだした伊東颯々の研究。全（pp. ８）
22. 荒木美蔭大人家集	単	1996年12月	混沌　20号	江戸時代後期、河内の国学者である荒木美蔭の歌集の紹介と研究。全（pp. ６）
23. 大橋長広について－京における鈴屋門－	単	1996年12月	武庫川国文　48号	江戸時代後期、京都における本居宣長の門人末流たちの活躍と学風についての考察。全（pp. 11）
24. 与謝蕪村の肖像画について	単	1996年12月	大阪春秋　85号	江戸中期の俳人与謝蕪村の肖像画について考察したもの。全（pp. ４）
25. 敷田年治翁について（22）～（30）	単	1996年08月	すみのえ　221～228号	幕末明治を代表する国学者敷田年治の研究。全（pp. ７，pp. ７，pp. ９，pp. ７～pp. ６，pp. ７，pp. ７，pp. ８，pp. ９）
26. 福田祐満について	単	1996年03月	武庫川女子大学紀要　44巻	明治初期の京都における北辺門学者福田祐満についての考察。全（pp. ７）
27. 敷田年治翁について（19）～（22）	単	1995年07月	すみのえ217～220号	敷田年治翁についての連載。全（pp. 5. 8. 8. 7）
28. 尾崎雅嘉自筆「百人一首一夕話」の成立	単	1994年12月	武庫川国文44号	近世期成立の百人一首研究書のなかで最も秀れたものの一つである「百人一首一夕話」の著者自筆本が発見されたが、これを内容吟味し、板本と比較しつつ、位置や成立の経緯を明らかにした体系的論文である。
29. 高山慶孝　明石の浦月見の記	共	1994年11月	幕末明治　和歌資料－	唐崎、谷口、中村、野崎、栄、橋本、藤井 堺の国学者の高山慶孝による明治初期（開化の頃）の旅行記。（pp. ４）
30. 高山慶孝について（付・高山慶孝蔵書目録）	単	1994年10月	混沌18号	幕末期から明治初期において、堺における文雅壇の中心人物であった国学者高山慶孝の伝記と事跡を明らかにしたもの。末尾に慶孝の蔵書目録の翻刻も添えた。
31. 津守国美歌集「和歌明津集」（三）	単	1994年10月	すみのえ214号	平成６年３月20日「すみのえ」211号の続稿。
32. 近世文学と食の歳時記－近世後期類題和歌集の食－	単	1994年09月	季刊　食	近世後期に出刊された様々な類題和歌集から歳時記にかかわる食物を拾い、近代短歌へと続く、和歌題詠と題材について考察したもの。
33. 津守国美歌集「和歌明津集」（二）	単	1994年04月	すみのえ212号	平成６年３月20日「すみのえ」211号所戴の＃－の続稿。
34. 尾崎雅嘉歌集（二）	単	1994年03月	武庫川国文43号	近世後期における上方の代表的町人学者、尾崎雅嘉の歌集が未刊散佚状態であるため、上方歌壇研究の一つとして歌集作製を試みたもの。
35. 津守国美歌集「和歌明津集」（一）	単	1994年01月	すみのえ　211号	住吉大社神官で、幕末期の勤皇歌人であった津守国美が近衛家門人として月並歌会等で詠じた和歌を編んだ自筆歌集の紹介研究。
36. 河本延之七周忌追悼歌集「聲香集	単	1993年12月	混沌	京都歌壇で独自な地位を保ちながら父子二代にわた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
」				り、歌集を出版・指導にあたっていた河本家の研究と、追悼歌集についての論攷。
37. 敷田年治翁について（十七）	単	1993年10月	すみのえ　208号	（16）に続く内容。
38. 紀貫之九百年忌追善歌集「たち花の香」	共	1993年09月	鳴尾説林	近世期の追善遠忌の出版歌集としては、収載歌人数、歌数からも最大数の部類にはいる歌集の翻刻と紹介・考証。
39. 住吉大社御文文蔵　津守国美自筆「奉納和歌集」	単	1993年07月	すみのえ　209号	住吉大社の歴代神主家の神主であり、近衛家門人の歌人であった津守国美自筆歌集の紹介と考証・新出本である。
40. 幕末期万葉調歌集「やこゝのたり」	単	1993年07月	歌姫　武庫川女子大学上代文学研究会	幕末期の万葉調歌人の日並に書かれた自筆稿本であるところの歌集の紹介と、著書の推定及び書誌的考証研究。
41. 敷田年治翁について（十六）	単	1993年04月	すみのえ　207号	幕末明治の大阪の代表的国学者である敷田年治の伝記研究の一つで、現在、敷田家に伝わる資料より、敷田年治の追悼歌の和歌短冊一括を調査し、門人と交流について研究調査したものである。
42. 追善歌集『月玉橋』について	単	1993年03月	「武庫川国文」41号	高槻における近世後期の歌壇とその文人グループの存在を指摘したもの。
43. 尾崎雅嘉歌集（一）	単	1992年12月	「武庫川国文」40号	従来歌集のまとめられていない、尾崎雅嘉の和歌を博捜して編んだもの。
44. 加藤景範著「国雅管窺」について	単	1991年12月	「懐徳」60号　大阪大学文学部　懐徳堂記念会	懐徳堂の歌人として大阪で活躍した加藤景範とその歌論書について、いかなる学派によるかを考証しつつ論じていく。
45. 資料収書・個人と図書館	単	1991年12月	季刊「食」№42　ケンショク「食」資料室	近世期の板本・写本の集書、保存、研究についての概説また具体的例示として、大江広海の短冊・写本（自筆本）と板本について論じるもの。
46. 書庫の一冊「大阪好書録」	単	1991年11月	羽衣学園短期大学図書館報18号	昭和戦前戦後をつなぐ好書会の記録である「大阪好書録」を紹介したもの。限定版の稀書である。
47. 国学者・矢盛教愛について　ー付・矢盛文庫旧蔵本目録ー	単	1991年07月	混沌15号　大阪芸文研究混沌会	幕末の山陵研究に名高い国学者矢盛教愛についてのはじめての論考、谷森善臣らに比して論及の無かった教愛の姿に迫る論で付として旧蔵本目録を編んだ。
48. 尾崎雅嘉社中歌集	単	1990年12月	みをつくし５号　上方芸文研究会	新発見の資料尾崎雅嘉京都における社中門人たちの歌会歌集一巻（雅嘉自筆）の紹介と翻刻。
49. 西村友信と近藤芳樹	共	1990年10月	羽衣国文４号　羽衣学園短期大学	管・松崎 長州宇部の国学者西村友信とのその師である近藤芳樹について伝記考証したもの。付として板本「緑浜集」の翻刻をあげる。　分担　管（pp.9）
50. 山片家の歌人	単	1990年06月	混沌14号　大阪芸文研究混沌会	山片家に現存する資料を活用し、山片家の歌人たち、山片重中、山片重信ら代々の当主をはじめとする人々をあげて論究したもの。
51. 言霊学者・高橋残夢	単	1990年04月	詞林７号　大阪大学　古代中世文学研究会	桂園派の四天王とされ、言霊学者として知られる高橋残夢の、言語学者としての業績について論じたもの。同論文は国語学会の「国語学」169集学界展望に高い評価を受けた。
52. 尼か崎の花火見に行たりし記	単	1990年01月	大阪春秋59号　大阪春秋社	幕末明治の名物であった尼崎藩の藩士による武庫川河原での花火を京都の国学者山田嘉猷が見物に行った紀行文の紹介。
53. 幕末の女流歌人・中西為子	単	1989年10月	詞林６号　大阪大学　古代中世文学研究会	神戸幕末の女流歌人の中西為子について伝記攷証と和歌集の編を試みたもの。
54. 近世文学にみる種痘と除痘館	単	1989年06月	大阪春秋57号　大阪春秋社	緒方洪庵が和歌を好んだことは単なる趣味では無く、医学者として、翻訳に正確を期すること、世俗的な交際の道具としてあったことを様々な観点から論証したもの。
55. 敷田年治翁について（一）～（十三）	単	1989年04月	すみのえ№191～すみのえ№204	明治期の大阪を代表する国学者である敷田年治について、様々な角度より検照しつつ、明治期の和歌・国学・神道学をも追求していくもの。
56. 狂歌本拾遺一、二、三	共	1989年03月	羽衣学園短期大学紀要25号　26号　27号	中野・管 上方狂歌本の内、丸派のものを取りあげて紹介翻刻したもの。　分担　管　25号（pp.15）、26号（pp.23）、27号（pp.6）
57. 歌集「鄙万手布理」について	単	1989年02月	青山短大国文５号　大阪青山短期大学	回文歌の歌集として出版されたものは近世にも稀れで、言語遊戯の資料としても注目されるものの紹介と解題。
58. 幕末明治の津守家の人々	単	1988年12月	すみのえ№191　住吉大社	幕末から明治期において、大阪に重きをなした津守神主家の人々を取りあげて紹介する。
59. 山片重信歌集「［■］子園草稿」について（一）（二）	単	1988年10月	混沌12号　13号　大阪芸文研究混沌会	山片家の本家当主山片重信の歌集を新資料として、山片家の和歌のサロンとしての有様、言霊学者、高橋残夢との関わりについて紹介考証したもの。
60. 津守国美について	単	1988年10月	すみのえ№190　住吉大	幕末明治最後の名実共に津守家を代表する歌人の津

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			社	守国美について論じたもの。
61. 近藤芳樹の板下	単	1988年09月	解釈９月号　解釈学会	木板本の板下と国学者の板木板下についてを窺ったもの。
62. 津守国美詠草	単	1988年07月	すみのえ№189　住吉大社	住吉大社の神官として権勢をふるった、津守家は、また、歌人としても一流の人々を輩出した。
63. 田中金峰「大阪繁昌詩」　ーー父田中華城の奉納箱書ーー	単	1988年04月	すみのえ№188　住吉大社	竹詩の流行の頂点とも珠玉の詩集ともいうべき「大阪繁昌詩」に、父華城の奉納箱書の存する住吉大社御文庫本を紹介する。
64. 幕末明治京都の文人（一）～（十三）	単	1988年03月	中外日報　（京都中外日報連載）	京都における無名有名の幕末から明治期にかけての文人たちの活動を逸話を中心にあげて連載したもの。取りあげる人物は著名歌人の太田垣蓮月尼から、大夫桜木、京都奉行所の与力同心、またニセ官軍としてついに切られた赤報隊の書記方川喜多真彦、青蓮院の坊官で諸大夫の進藤千尋まで様々な人物がその対象となる。
65. 「百人一首一夕話」と大石真虎	単	1988年03月	青山短期大学国文４号　大阪青山短期大学	「百人一首一夕話」の挿画の画人大石真虎についての伝記考証と「女小学校草」との挿画の類似を指摘にまで及ぶ。
66. 「群書一覧」成立攷	単	1987年11月	近世文芸47号　日本近世文学会	書目解題書としては近世後期の代表的なものである「群書一覧」がどのようにして成立していったかを明らかにしたもの。
67. 蘿月庵社中門人と尾崎雅嘉	単	1987年10月	みをつくし５号　上方芸文研究会	尾崎雅嘉をめぐる社中門人たちをあげて、その評伝と述著についてあげる。草間直方など当時一流の人々が門人にあること明らかにしたもの。
68. 大阪俄と星菫派	単	1987年09月	解釈９月号　解釈学会	明治大阪で流行の大阪俄と星菫派を取りあげ、当時の星菫派への風評と享受を窺う。
69. 「百人一首一夕話」稿本と類書	単	1987年08月	混沌11号　大阪芸文研究混沌会	百人一首一夕話の稿本ともいうべき「百歌伝註（京都大学蔵本）」についての考証と、類本であるところの「六歌仙一夕話」についての考証。
70. 国語表現法における作文指導	単	1987年03月	羽衣国文１号　羽衣学園短期大学	短期大学における国語表現法の指導の実際とその指導における具体的な運営についての報告。
71. 文政年間・駱駝舶来について	単	1987年02月	河内国文11号　大阪芸術大学	文政年間、オランダ人に舶来された一組の駱駝が文芸にもたらした様々の影響をまとめて、網羅し、近世文学に底に流れる精神性や土壌について追求したもの。
72. 塙保己一と尾崎雅嘉	単	1986年10月	塙保己一論纂　温故学会	群類従で名高い塙保己一と群書一覧を著した尾崎雅嘉との関わりについて論じた。
73. 中川烏江について	単	1986年07月	大阪春秋47号　大阪春秋社	明治から大正昭和初期にかけての船場の医者で俳人でもあった中川烏江について紹介し彼の集書家としての姿についても論じたもの。
74. 「百人一首小倉の山ふみ」（翻刻）	単	1986年07月	みをつくし４号　上方芸文研究会	百人一首の口訳書である「百人一首小倉の山ふみ」を翻刻したもの。
75. 「宮古現存和歌者流　梅桜三十六家選」	単	1986年06月	文学研究63号　日本文学研究会新典社	幕末歌人見立番付一枚刷の翻刻、解題、考証を加えたもの。
76. 契沖阿闍梨百五十回遠忌　追悼歌集「菴のうめ集」	単	1986年06月	解釈６月号　解釈学会	岩波版全集解題にも洩れた契沖遠忌追悼歌集の発掘紹介。
77. 河本延之の和歌懐紙	単	1986年03月	混沌10号　大阪芸文研究混沌会	京都高尾の自然破壊を詠じた幕末歌人の和歌紹介。
78. 蔵書印「淡路国神道中教院」	単	1986年03月	混沌10号　大阪芸文研究混沌会	明治期の神道中教院の幻の蔵書印の紹介。
79. 花垣一衛について	単	1986年03月	混沌10号　大阪芸文研究混沌会	従来の定説を訂し、瀬辺春根が花垣一衛であることを論証し、詳細な年譜と著述の解題を施したもの。
80. 餅花庵の狂歌本（翻刻）上・中・下	共	1986年03月	羽衣学園短大紀要22号　23号　24号	中野・管 大阪近世期の狂歌壇の雄・餅花庵の歳旦集の翻刻紹介。　分担　管　22号（pp.15）、23号（pp.23）、24号（pp.6）
81. 富岡鉄斎旧蔵本「淡路国常盤草」について	単	1986年01月	あわじ３号　淡路地方史研究会	明治の文人富岡鉄斎と淡路の学者との関わりについて考証し、大阪府立中之島図書館本を紹介する。
82. 円地蔵菩薩縁起（翻刻）	共	1986年01月	河内国文９号　大阪芸術大学	管・大野・尾崎・須田 京都山伏山町蔵の地蔵菩薩の縁起一巻を翻刻、解題、紹介した。　分担　管（解題pp.1）
83. 稲室足穂について補遺	単	1986年01月	河内国文９号　大阪芸術大学	鈴屋門系の歌人について伝記資料の紹介。
84. 北辺門末流　上野正聡について	単	1986年01月	河内国文９号　大阪芸術大学	北辺門の末流の最後の学者で不遇に没した上野正聡についての紹介。
85. 斎部道足－寛政十二年鈴門入門－	単	1985年09月	解釈９月号　解釈学会	入門料を受け取りながら、門人録に本居宣長がその名を記さなかった道足についての考証。
86. 江沢講修自筆「逸今昔物語」	単	1985年08月	東洋文化55号　無窮会	江戸派の国学者である江沢講修の戯文を紹介考証したもの。
87. 稲室足穂について	単	1985年06月	みをつくし３号　上	村田春門の墓石建立に尽力した鈴屋門の歌人、稲室

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			方文芸研究会	足穂についての伝記考証。
88. 詠史歌集作者姓名録（解題・翻刻）	共	1985年05月	河内国文８号　大阪芸術大学	羽田・管 類題歌集の詠史歌集の姓名録の解題と翻刻。　分担　管（pp. 2）
89. 北辺門人と審神舎中月並歌会	単	1985年04月	甲子論集　林巨樹先生華甲記念国語国文論集	富士谷成章を祖とする文法学研究の学派北辺門の人々の伝記と歌人としての姿を明らかにした。
90. 幕末期浪華文人見立番付	単	1985年04月	大阪春秋43号　大阪春秋社	浪華文人と見立番付との関わりについて論じたもの。
91. 板木師の短冊	単	1985年01月	解釈１月号　解釈学会	伊勢暦の板木師の発句短冊一葉を紹介し、出版史の一コマを窺ったもの。
92. 村田春門大坂社中門人	単	1984年11月	混沌９号　大阪芸文研究混沌会	鈴屋門では水野忠邦の師として門人中重きをなした村田春門の門人名簿を中心に論じたもの。
93. 横書の学習指導案	単	1984年11月	解釈11月号　解釈学会	国語科の指導案のタテ書・ヨコ書の是非について論じたもの。
94. 池大雅の和歌一首	単	1984年11月	混沌９号　大阪芸文研究混沌会	池大雅の和歌と当時流行の類題歌書について考証したもの。
95. 「浪華風流月旦評名橋長短録嘉永六新板」（五十音順所載人名録一覧・解題）「浪華風流名橋競ノ評」（翻刻）	共	1984年06月	文学研究59号　日本文学研究会新典社	石井・管 文人の見立番付として、資料価値の高い、一枚刷を選び研究解題・翻刻を施したもの。　分担　管（pp. 1-2）（pp. 6-11）
96. 永田有翠について	単	1984年06月	みをつくし２号　上方研究会	大阪輓近の文人蒐書家研究の一つとして、永田有翠を取りあげて論じたもの。
97. 尾崎雅嘉逸話攷	単	1984年01月	解釈１月号　解釈学会	紺足袋先生と呼ばれ、聞香に長じた尾崎雅嘉の姿から、上方文人の本質をさぐる。
98. 木村蒹葭堂と尾崎雅嘉	単	1983年07月	大阪春秋36号　大阪春秋社	上方における二大文人の交流を通して、いかに上方文化の土壌が築かれていったかを論じた。
99. 神習文庫本「尾崎雅嘉随筆」について	単	1983年07月	東洋文化51号無窮会	神習文庫本を異本としてきた従来の説を、くつがえして、日本随筆大成本との関係について論じたもの。
100. 河内の文人橋本重肥について（一）～（七）	単	1983年07月	河内国文１号～（６・７法合併号）８号　大阪芸術大学	上方大阪の近郊地での富農の人々から新しいタイプの文人が幕末明治期に形成されていく姿を資料を生かして丹念に追跡したもの。
101. 和歌詠草二点	単	1983年04月	京都古書研究会　古本や往来20号	京都近世後期の歌人の詠草二点を取りあげて、当時の歌人の有様をさぐったもの。
102. 尾崎雅嘉年譜補遺	単	1983年03月	青山語文13号　青山学院大学	先にあげた「尾崎雅嘉年譜」の補遺。
103. 尾崎雅嘉著未刊本について	単	1983年01月	みをつくし１号　上方芸文研究会	漢学者としても一流であった尾崎雅嘉の姿を未刊の稿本から明らかにしたもの。
104. 谷川于喬伝記攷	単	1982年12月	混沌８号　大阪芸文研究混沌会	天保期の大阪歌壇に活躍した谷川于喬についての考証。
105. 尾崎雅嘉の蔵書印について	単	1982年09月	書誌学月報12号青裳堂	尾崎雅嘉の用印についての考証論文である。
106. 尾崎雅嘉年譜	単	1982年03月	青山語文12号青山学院大学	尾崎雅嘉の伝記研究として、その詳細なる年譜を作製、新資料による本格的な年譜とした。
107. 書目解題書「群書一覧」について（上）（下）	単	1982年03月	京都古書研究会　古本や往来15・16号	「群書一覧」について書誌学的研究。（1982年３月～５月）
108. 「尾崎雅嘉随筆」と本居宣長　「玉勝間」について	単	1981年12月	紀要梅花高等学校２号	日本随筆大成所収本（吉川弘文館）「尾崎雅嘉随筆」が本居宣長著「玉勝間」の考証随筆のみの抜抄であることを論証したもの。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1. 朝鮮通信使文芸資料（新出）をめぐって	単	2002年04月		韓国（朝鮮李朝期）と日本との友好親善の交流であった朝鮮通信使は、鎖国にあった日本には数少ない海外との文化交流の場でもあった。そこから生まれた交流は一つずつは小さなものであったが、その影響力は非常に大きなもので、日本の詩壇や画壇に様々な影響を与えた。その例として、詩箋と宇野元章詩集とをとりあげたもの。
2. 朝鮮通信使の残した発句短冊について	単	2000年05月		江戸時代、オランダ以外にアジアにおいて唯一国交をもった李氏朝鮮からの通信使の訳官のなかには、ネイティブスピーカーにせまる者が少なくなかった。また真の日本文化に通じた彼ら、訳官のうちには和歌・発句についてもよくする者さえあらわれていた。
3. 大橋長広について	単	1995年04月		京都における鈴屋門の動向と活動ぶりをみるうえで、天保以降は、その中心となる大橋長広の伝記と業跡について考察を進めたもので、これによって、京都の文雅檀の大きな流れがつかめることとなった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
4. 新出本尾崎雅嘉自筆　『百人一首一夕話』	単	1993年		近世期成立の百人一首注釈研究書のなかでも出色のものである尾崎雅嘉著『百人一首一夕話』の自筆本が管によって発見された。同書は従来知られた板本との異同が多く、挿画は全て異なり、内容は板本より逸話の多い読本的なものといえるものであった。よって雅嘉の著述の意図を明らかにしていく。
5. 「群書一覧」成立攷	単	1986年		書目解題書「群書一覧」が成立するには、いかなる経緯また、土壌があったのかを追求したもの。当時の文人グループの交流の姿も浮かびあがらせた。
6. 尾崎雅嘉と本居宣長	単	1985年		近世後期は出版物に交流また学問の交換公開といった面も持った。尾崎雅嘉は鈴屋門の出版物に宣長は雅嘉の著述に熱心に摂取した跡がみられ、宣長書簡にみられる激しい反発は、その裏面からのものということが判明する。
7. 文政年間・駱駝舶来について	単	1983年		文政年間に舶来した駱駝の一番は近世期の庶民の好みにかない、様々な文芸また学芸にも影響を及した。狂歌・和歌・合巻本・絵本・本草といった広い分野にみられるがその精神的根幹は同根であり、近世という時代の投写でもあることを論じた。
8. 尾崎雅嘉研究	単	1981年		「百人一首一夕話」「群書一覧」「蘿月庵国書漫抄」など有益な著述、編纂を成した上方文人の代表的存在である尾崎雅嘉の伝記研究がほとんどなされていなかったが、その年譜を作製、その伝記と共に業績を追跡考証したもの。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 新聞執筆「うたをよむ　坂本龍馬と和歌」	単	2013年07月08日	朝日新聞　２０１３年７月８日・月曜日・朝刊	
2. 講演「文の里　ー大阪の代表的文教地区ー」	単	2013年06月22日	武庫川女子大学生活美学研究所　第２回定例研究会　於・武庫川女子大学	
3. 講演「新島襄と妻八重ー幕末から明治の夫婦の生き方ー」	単	2013年04月19日	三田市立高齢者大学　於・三田市郷の音ホール	合同講座
4. 講演「冷泉為恭ー大和絵をよむ」	単	2013年01月13日	大和文華館	特別講義
5. 「若葉の雫」　解題・編集	単	2012年12月25日	上方幕末明治文芸資料集２（武庫川女子大学文学部日本語日本文学科　管研究室発行）	８頁
6. 講演「近世出版文化と服飾」	単	2012年	日本家政学会・服飾美学部会　第３回研究会　於・　華頂短期大学	
7. 週刊誌コメント「龍馬が出した「最後」のラブレター」	単	2010年08月09日	朝日新聞ウィクリーAERA	７０～７１頁
8. 放送・ラジオ放送「龍馬と手紙」	単	2010年08月01日	福井放送	「ラジオ放送講座」第１８回　３０分番組
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	日本近世文学会 国語学会 韓国日本文化学会 近畿民俗学会 解釈学会